

この教材を使っておくださる教室運営者及び学習支援者の皆さまへ

1. この教材について

この教材は主に、識字・日本語教室で学ぶ日本語学習者（学習者）に使っていただくことを想定しています。

日本語の基本的な学習を終えた人が、学習をさらに一歩進めることができるよう、次のように考えてこの教材を作りました。

(1) 学習の目標

この教材では、学習者と支援者が身近な話題に対する自分の経験や状況、および感想や意見を「話す」「書く」の表現活動を通して、伝え合うことをめざしています。

- ①「自分のこと」「生活のこと」「文化のこと」「地域のこと」について、相手にわかりやすく伝えることができる。
- ②自分に合った学習のしかたを考え、自ら学習を進めることができる。

中級前半（日本語能力試験：N3、CEFR：B1）程度の学習内容となっています。

(2) 学習時間

1 課を学習する時間は 4 時間程度（識字・日本語教室が週 1 回 2 時間程度と想定した 2 週間分）を考えていますが、学習者のペースに合わせて、早く進めたり、ゆっくり丁寧に進めたり、調整していただくとよいでしょう。

(3) 教材の構成

全 15 課と付録（「〈話してみよう〉漢字かな交じり文（ふりがななし）」「〈読んでもみよう〉漢字かな交じり文」「学習項目一覧」「各課の解説」「索引」）で構成されています。

(4) 漢字の学習

各課は、常用漢字を使用した漢字かな交じり文に、ふりがなをつけて書かれています。ふりがなが必要のない学習者には、付録にふりがなのない「〈話してみよう〉漢字かな交じり文（ふりがななし）」がありますので、それを読んで練習するといいでしょう。

また、漢字学習を丁寧に進めたい学習者には、〈読んでもみよう〉のひらがな文を使い、内容を理解した後で、漢字かな交じり文に書き直す練習をしてもらいましょう。学習者に合わせて、少しずつ新しい漢字を紹介し、書ける漢字を増やしましょう。付録に「〈読んでもみよう〉漢字かな交じり文」がありますので、確認ができます。

2. この教材の特長について

(1) 対話型の学習

日本語の学習者と支援者がともに理解し合い、関係を深めながら学習できるよう、対話の活動を中心としています。

(2) 話題中心の学習

「自分のこと」「生活のこと」「文化のこと」「地域のこと」に関する身近な話題を選び、それぞれの課を作りました。

(3) 初級から中級への橋渡し

初級の学習を終えた学習者が中級に進むには、以下のことが大切です。

- ・「読む」「書く」の基本的な力を身につけること
- ・話すときと書くときの文の違いを理解すること
- ・単語や短い決まったフレーズでやり取りするのではなく、やや複雑な文やまとまった内容を持つ短い段落でやり取りできるようにすること

各課の練習は、これらの点を考えて作りました。

(4) 学習のしかたをわかりやすく

中級以降に学習を進めるためには「読む」「書く」を含め、学習者が自ら学習を進めることが大切です。学習のしかたをわかりやすく示すことで、自主的な学習を促すことにつながります。そこで、この教材では、忙しく時間のない学習者にも、効率よく効果的に学んでもらえるよう、各課を構成しました。

3. 各課の練習のねらい

この教材は、「話す」「書く」という表現活動を通して学習者と支援者がともに身近な話題に関して、考えを伝え合い、学び合うことをめざしています。

この教材を使う際に、学習者には学習用のノートを作ってもらうことを勧めてください。そこには学習の進み具合が記録され、学習者と支援者の間でいつでも確認ができます。

次のような構成で、1課が作られています。

(1) 各課のテーマと〈この課で伝え合うこと〉

<small>だい か なまえ</small> 第1課 名前
〈この課で伝え合うこと〉 <small>なまえ</small> 名前にどんな意味があるか、 <small>だれ</small> 誰につけてもらったかなど、 <small>じぶん</small> 自分の名前について <small>せつめい</small> 説明……

各課の学習目標を表しています。課の学習に入る前に、学習者と確認しましょう。

(2) 〈新しい言葉を調べよう〉

<small>あたらし ことば しら</small> 〈新しい言葉を調べよう〉 <small>ことば いみ しら</small> ☆言葉の意味を調べて、書きましょう。			
	<small>あたらし ことば</small> 新しい言葉	<small>かんじ</small> 漢字	<small>いみ</small> 意味
1	<small>なまえ</small> (名前を)つける		
2	~について		

その課で新しく出る言葉が本編（各課のテーマ・〈この課で伝え合うこと〉・〈考えてみよう〉・〈話してみよう〉・〈読んでみよう〉・〈使ってみよう〉・〈インタビューしよう〉）から掲載順に並べられています。

新しい言葉として選んだのは、令和元年度に作成した『きいて まねして はなしてー「わたしたちが語る」20のエピソードー』で扱われた語、および初級の基本的な語（日本語能力試験のN5相当の語）を除いた語です。「きれいな」「静かな」といった「な」がつく形容詞は「(な)」、動詞の用法がある名詞は「(する)」と表示しました。また、擬音語はカタカナで、擬態語はひらがなで書いてあります。

1～5 課は、表に20前後の語を示しています。中級以降は、初級と比べて、学習語彙の抽象度が増します。本編に入る前に学習者が母語で意味を調べておくと、本編の内容から学習を始めることができるので、関連する語や話題に学習を広げることができます。あらかじめ意味を調べておくことが難しい場合は、本編で新しい言葉の意味を確認しながら学習することもできます。

6 課以降には表はなく、30 前後の語が示されています。1～5 課の表を参考に、学習ノートに新しい言葉と意味を書いてもらいましょう。

☆次の言葉を使って、文を作りましょう。

- 1.ドキドキ(する) _____
- 2.にこにこ(する) _____
- 3.仲良く _____

〈新しい言葉を調べよう〉の後に、1～3の言葉を使って文を作る練習があります。生活の中でよく使われる擬音語・擬態語(オノマトペ)や、意味や使い方がわかりづらい副詞、1つで複数の意味がある多義語などを取り上げました。学習者が作った文がより適切になるようにしましょう。

(3) 〈考えてみよう〉

〈考えてみよう〉

- 1.日本で一番多い姓は何だと思えますか。
- 2.日本人の名前で、どんな名前を知っていますか。
- 3.好きな名前がありますか。それはどんな名前ですか。

この課のテーマについて話題のきっかけづくりとなる質問が3つあります。

話題について、〈考えてみよう〉・〈話してみよう〉・〈読んでみよう〉・〈インタビューをしよう〉・〈書いてみよう〉と段階を追って、学習者の考えを深めてもらうために、ここではまず、学習者自身の経験や考えを質問して、自分とのかかわりをとらえてもらいます。

学習の動機づけにもなりますので、学習者と話題、学習者と支援者自身の接点が得られるよう、3つの質問に限らず様々な角度から自由に話題を広げ、楽しく話しましょう。

(4) 〈話してみよう〉

はな
〈話してみよう〉

つぎ かいわ こえ だ なんど れんしゅう
☆次の会話を声に出して、何度も練習しましょう。

たなか たなか たなかまこと い ねが
田中:はじめまして。田中です。田中真と言います。よろしくお願いします。

ねが
ラビン:はじめまして。ラビンドラ・マハルジャンです。よろしくお願いします。

たなか
田中:ラビンドラ・マハルジャンさんですか。どこから来ましたか。

〈話してみよう〉の目的は2つあります。

○〈読んでみよう〉の見通しを持つ

〈話してみよう〉と〈読んでみよう〉の内容は、ほぼ同じ内容です。長い文章の読み取りは、学習者にとって難易度が高いものとなります。まず、対話の形(音声のやり取り)で文を読む(内容把握を行う)ことで〈読んでみよう〉の内容把握につなげます。

○対話の練習を行うことで、自然な話し方を身につける

発音やイントネーションに気をつけ、なめらかに言えるようになるまで練習することで、自然な話し方を身につけます。また、くだけた言い方や省略、倒置など、話し言葉としてよく耳にする表現を確認します。

学習者とともに対話の文を音読し、ロールプレイをします。〈話してみよう〉では、できるだけ自然な場面を再現するようにしました。発音や文末のイントネーションを確かめながら、声に出して、役割を入れ替えたりして何度も練習しましょう。学習者に合わせて文末を適切な形に変えたり、「です・ます」を使わない普通形や地域の言葉でロールプレイを行ってもいいでしょう。

かいわ あ ぶん あ ぶん か
☆会話と合っている文に○、合っていない文に×を書きましょう。

1. () たなか はじ あ
田中さんとラビンは初めて会いました。

2. () ラビンはネパールの人です。
ひと

3. () 「姓」は、家族の名前です。
せい かぞく なまえ

4. () 日本の名前とネパールの名前は、順番が同じです。
にほん なまえ なまえ じゅんばん おな

5. () ラビンの姓は、ラビンドラです。
せい

ロールプレイが終わったら、文の内容を確認します。場面や登場人物、話題などについて、正誤問題(○×)を行って、文の内容を確認します。ここでは特に、語句や文法の確認は行いませんが、必要な場合は適宜行ってください。

(5) 〈読んでみよう〉

〈読んでみよう〉
☆次の文を読んで、質問に答えましょう。

ラビンドラ・マハルジャンさんは、1ねんまえにネパールのカトマンズからおおさかへきました。いま、ネパールリョウリのレストランでリョウリをつくっています。ときどきことばがわからなくて、こまることがあるので、にほんごきょうしつでべんきょうすることにしました。

〈話してみよう〉のやり取りを説明した文です。内容はほぼ同じですが、対話の場面・状況をより明確に説明するため、対話場面のやり取りでは表現されていない、背景についての情報が盛り込まれていることもあります。点線内の文は漢字を使わずに書かれています。

まず音読し、意味を考え、内容を問う質問に答えます。そして、知っている漢字を使って、ひらがな文を漢字かな交じり文に変換します。これは学習ノートに書き込んでもらうといいでしょう。

漢字で書けない部分は学習の進捗に応じて新しい漢字として紹介していただき、少しずつ漢字で書ける部分を増やしてもらうといいでしょう。

ひらがな文を読むのに慣れないうちは、「語+助詞」の単位を斜線で区切るなど、区切り方を示しながら練習するといいでしょう。

例 ネパールリョウリの/レストランで/リョウリを/つくって/います/

(6) 〈使ってみよう〉

〈使ってみよう〉
☆例を見て、文を作りましょう。

1. ~ばいい

例 A: 友達の家へ行くとき、何を持って行けばいいですか。
B: おかしを持って行けばいいと思います。

A: さいふをなくしたとき、_____ ばいいですか。
B: _____ ばいいと思います。

日常的な会話の中で便利に使われる表現や、書くときに使われる表現を各課に3つずつ取り上げて、文を作る練習をします。学習者が作った文がより適切な文となるようにしましょう。

(7) 〈インタビューしよう〉

〈インタビューしよう〉

☆^{ともだち}友達や^{まわ}周りの^{ひと}の人にインタビューしましょう。4と5は、^{しつもん}質問を^{かんが}えましょう。

1. ^{じぶん}自分の^{なまえ}名前をつけた^{ひと}人を知っていますか。
2. _____ ^{なまえ}さんの^{いみ}名前はどんな意味ですか。
3. ^{じぶん}自分の^{なまえ}名前が^す好きですか。
- 4.
- 5.

支援者や教室でともに学ぶ人、家族や友人、職場の同僚など身近な人にインタビューをします。

学習者の中には普段質問されることがあっても、自分から質問をする機会は少ないという人もいますので、各課の話題に関連した質問を考えるのは難しい場合があります。慣れないうちは、1～5番の質問がそれぞれ関連を持たず、一問一答になってもかまいませんが、できれば、テーマ性を持って、個々の質問が関連づけられ、話題がより深まるようなインタビューができるといいでしょう。

また、役割を交替し、学習者も自分が考えた質問を受ける側になって、考えを述べる練習をするといいでしょう。

(8)〈書いてみよう〉

〈書いてみよう〉

☆質問の答えをまとめて、300字ぐらいの文を書きましょう。

インタビュー活動の結果を文にまとめる練習です。1～5番の質問を一問一答の形で書くのではなく、文章にします。接続詞や「これ」「それ」「あれ」などの指示語が効果的に使えるようになるといいでしょう。学習ノートに書いてもらい、学習者が作った文がより適切な文となるようにしましょう。まとめることが難しい場合は、自分自身の考えを作文の形で書いてもらってもいいでしょう。